

要旨

高知県を訪れた外国人観光客の観光行動分析と高知の魅力の解明

—外国クルーズ客を対象に—

尾田妃菜

指導教員 那須清吾

研究背景

近年、訪日外国人観光客数は全国的に増加しており、インバウンド観光は日本の観光振興において重要な役割を果たしている。高知県においても、クルーズ客船による外国人観光客の来訪が増加しており、地域の魅力を発信する機会として期待されている。しかし、外国クルーズ客が高知県のどのような点に魅力を感じているのか、また旅行目的と実際の観光行動の関係性については、十分に明らかにされていない。

研究目的

本研究の目的は、高知県を訪れる外国クルーズ客の旅行動機に着目し、観光客が求めるものと高知県の観光資源・観光施設がどの程度適合しているのかを明らかにすることである。

研究方法

先行研究および消費者行動論・観光学の視点を踏まえ、旅行者の動機や観光地に関する理論的な整理を行った。その上で、2024年7月7日に高知新港へ寄港した大型クルーズ客船の乗客を対象にインタビュー調査を実施した。得られた回答をもとに、旅行動機や実際の訪問地、関心がある観光地の関係性について分析を行った。

分析結果

回答者の旅行動機は5つに分類され、その中でも緊張解消行動が最も多く選択されていた。また、行ってみたい場所としては、緊張解消行動に該当する自然系観光地に高い関心が集まっていた一方で、実際の観光行動とは必ずしも一致していないことが確認された。この背景には、クルーズ客船観光特有の時間的・距離的制約が大きく影響していると考えられる。

考察・結論

本研究から、高知県におけるクルーズ客船観光では、観光客の関心と実際の観光行動との間にズレが生じていることが明らかとなった。特に自然系観光地は高い関心を集めている一方で、移動の負担が大きく、十分に活用されていないと考えられる。そのため、高知新港や高知市中心部からの移動手段の確保が重要である。加えて、旅行動機と観光地の関係性を示した情報発信や、動機別に観光地を組み合わせたモデルプランの提示などを行うことで、限られた滞在時間内でも満足度の高い観光行動につながることを期待される。